

2025年卒 大学生 活動実態調査 マイナビ

株式会社マイナビ（本社：東京都千代田区）は、2025年3月卒業予定の全国の大学3年生、大学院1年生（1,200名）を対象に実施した、「マイナビ 2025年卒大學生活動実態調査」の結果を3月8日に発表しました。先日（2024年3月8日）マイナビより「マイナビ 2025年卒大學生活動実態調査」の結果が公表されました。今号では、この調査の中から主要な項目について見てみます。詳しくはマイナビHPで [2025年卒大學生活動実態調査（3月1日） | マイナビキャリアサーチLab \(mynavi.jp\)](#)

●内定状況

- 2025年卒業予定の大学生・大学院生の3月1～3日時点での内々定率は34.3%（前年比16.2pt増）、平均内々定保有社数は1.8社（前年比0.2社増）であった。25年卒においてはインターンシップの定義改正があり、一定の条件を満たすインターンシップ・プログラムに参加した場合、その情報を採用選考に利用しても良いと明記された。時期については「広報活動開始・採用選考開始時期以降に限る」と明記されているが、一部でそれよりも前に採用選考が開始されていた影響で、内々定率が大きく上昇したと考えられる。
- しかしながら、マイナビ調査によると企業が面接を開始する時期は前年と同様に3月が40.6%（対前年比3.9pt減）と最多で、内々定出しの開始は3月が31.1%（対前年比5.4pt増）であり、全体的にやや前倒し傾向はあるものの、広報活動開始後に採用活動を行う企業が大半である。
- また、学生においても現在就職活動で最も注力していることは、「エントリーシート提出（27.8%）」が最多となっている。内定保有者に限定しても、最も注力しているのは「面接（28.9%）」で前年と同程度の割合だ。「エントリー（プレエントリー含む）」などの選考前の活動割合が前年から減少するなど、採用選考に参加する時期が前倒しになっている状況は読み取れるが、就職活動が本格化するのはいずれからであると言える。
- 内々定を保有したまま就職活動を継続する学生にいつまで活動するかを聞いたところ、「2024年6月末」との回答が29.5%（対前年比4.4pt減）となっていた。内々定を保有したまま就職活動を継続する学生が大半だと言えるだろう。

●企業選択のポイント

- 就職先として企業を選ぶ際のポイントとして最も当てはまるものを1つ選んでもらったところ、最も多かった回答は「待遇面（給与、休日休暇制度含む）が良い」で22.8%（対前年比4.5pt増）だった。昨年最多だった「社風や働く社員が良い・良さそう」が2番目に多く22.6%（対前年比6.1pt減）となった。上位2項目についてはほぼ同じ割合であり、待遇の良さと社風の良さの両方が企業を選ぶうえで重要なポイントとなるようだ。
- またそれぞれの項目を選んだ理由を聞くと、「待遇面の良さ」を選んだ人は「心身の健康の必要性」について言及する声が多く見られた。また、「社風や働く人の良さ」と「安定性」を選んだ人は「長く勤めたい」という声が多いことが共通していた。

就職先として企業を選ぶ際のポイント (最も当てはまると思うものを1つ)	25年卒	24年卒	増減
待遇面（給与、休日休暇制度含む）が良い	22.8%	18.3%	4.5%
社風や働く社員が良い・良さそう	22.6%	28.7%	▲6.1%
安定性がある	19.3%	19.0%	0.3%
福利厚生が充実している	10.5%	11.4%	▲0.9%
社会貢献性がある	10.0%	10.7%	▲0.7%
技術力・商品企画力がある	7.4%	5.8%	1.6%
業界上位である	5.6%	4.2%	1.4%

●男性育児休業取得率が企業選びに関心がある学生は72.2%

- 2023年4月より、従業員規模1000人以上の企業に対して男性社員の育児休業取得率等の公表が義務化されたが、さらに2025年4月からはその対象が従業員規模100人以上に拡大される方針で検討されている。こうした「男性育児休業取得率」に関して、企業選びの際にどの程度、関心を持つか聞いたところ、「関心がある（関心がある＋どちらかというに関心があるの合計）」との回答が72.7%となった。前年の調査は義務化されたタイミングで実施したこともあり、25年卒の数値は前年に比べるとやや低下しているが、依然、関心が強い様子がうかがえる。次の改正は25年卒の学生が卒業するタイミングになるため、今後、さらに注目度が高まると予想される。